第５回　村立幼稚園職員等ワーキング・チーム会議　会議録

日　時	令和３年２月15日（月）午後３時～午後５時10分
場　所	東海村役場　議会棟　203委員会室
出席者	・各村立幼稚園職員（7名） ・村立保育所及びこども園職員（2名） ・指導室（1名） ・子育て支援課（4名）
次　第	１．開会 ２．子育て支援課長挨拶 ３．グループワーク 「幼稚園における昼食の提供について」 ４．閉会

１．開会

２．子育て支援課長挨拶

３．グループワーク

「幼稚園における昼食の提供について」

・保護者アンケートでもニーズが高かった昼食の提供について，グループワーク形式で意見出しを行い，多方面から検討を行った。

・グループワークで出された意見については，別添「第５回村立幼稚園職員等ワーキング・チーム会議意見出しのまとめ」のとおり。

＜石神幼稚園の事例発表＞

現在，週４日石神小学校へ学校給食を食べに行っている石神幼稚園の事例を共有した。

給食実施までの経過について

・園児数が減少傾向となったことをきっかけに，給食の提供を検討し，平成30年９月に保護者アンケートを実施した。

・アンケートの結果としては，「給食は栄養のバランスが偏らない」，「メニューが豊富である」，「みんなで食べた方が楽しい」といった肯定的な回答が多かった。

・悪天候時に歩いていくことは大変ではないか，給食費が経済的負担になるのではないか，アレルギー対応はどうするか，欠席や早退時の返金対応はどうなるか，といった課題も挙がった。

・令和元年５月から週３回(火・水・木)で給食の提供を開始。

・令和元年 ９ 月に再度，保護者アンケートを実施したところ，給食開始後の子どもの変化について「色々な食材を食べられるようになった」，「好き嫌いが減った」，「食器の準備や片付け等を手伝う

ようになった」といった意見があった。
・令和２年 10 月からは週４回（月・火・水・木)で実施している。

給食費について

・給食費については，子ども一人当たり月額 2,500 円を現金徴収している。
・年度初めに提出してもらう「給食申込書」の中に，病欠や給食提供をされなかった場合でも給食費は返金しないことを記載している。

献立について

・園児が食べにくいものなどは調節してもらっている。都度，栄養士等と打合せて献立の変更などにも対応してもらっている。そのため，調理員への負担が生じているという話も聞いている。
・検食の対応もある。検食の時間が決まっており，スケジュールや天候によっては慌ただしくなる。

アレルギー対応について

・アレルゲンがある献立のときは，家庭から代わりの弁当を持参してもらっている。
・年度初めに食物アレルギー票を配布している。アレルギーのある子は病院を受診してもらい，学校生活管理指導票を医師に記入してもらう。アレルギーの情報は，園内のほか，学校教育課や栄養士，子育て支援課とも情報共有している。
・毎月，園と保護者とで，献立の確認を行う。

その他

・お弁当の日である金曜日に，主に行事を組み込むことが多くなる。給食の日を考えながら行事を入れるのが難しいことも一つの課題であり，週５日の給食は厳しいと感じる。
・クラスの子が「お弁当が美味しい」と言っていた。週１日のお弁当だと，保護者も意識して頑張って作ってきてくれているのかなと感じる。
・小学校までの移動は予想していたよりもスムーズで，そこまでの負担は感じなかった。
・雨の日に歩くという経験はあまりないため，裏を返せばいい体験になると思う。
・小学校では，最初の 10 分は静かに食べる「もぐもぐタイム」があるが，幼稚園では楽しく食べるという面から，騒がしく感じられてしまうこともある。
・園児から調理員へ御礼の手紙を出したりもした。

＜まとめ＞
・次回は，教育・保育時間の拡充について検討していく。

４．閉会

第5回 村立幼稚園職員等ワーキング･チーム会議　意見出しのまとめ（1）

今後の方向性を判断するための材料として，実施の可不可を問わず，多方面から検討を行ったものであり，決定事項ではありません。

テーマ：幼稚園における昼食の提供について

保護者の手作りお弁当

園が提供している昼食（お楽しみ弁当）

手作りお弁当を昼食としている意義

- 親が作ったものを食べる喜びを感じられる
- 保護者が子どもの食事量を管理･把握できる
- 手作りのため安心して食べられる
- 食物アレルギーがある子も安心して食べられる
- お弁当を通して，親子のコミュニケーションになる
- 家庭の味に触れることができる
- 給食費の負担がない
- 好きなものを食べられる
- 子どもにお弁当を作ってあげたいと思う保護者のニーズに応えらえる
- 完食したという満足感が得られる

課題

- 好きなものばかりだと栄養が偏ってしまう
- 苦手なものを克服できずに小学校へ就学してしまう

お楽しみ弁当を提供している意義

- 季節感や行事を感じるお弁当を提供できる
- 食わず嫌いを克服できる可能性がある
- みんなで同じものを食べられる
- 同じものを食べることで子ども同士の刺激になる
- 保護者がお弁当を作る負担軽減になる
- 頑張って食べようとする意欲を育てることができる

課題

- アレルギー対応をしてもらえない店もあり注文先を選ぶのが大変
- 嫌いなものが入っていると朝から落ち込んだり楽しくないと感じる子もいる
- 幼児向けに味付けされているものではないため残食が多い

第5回 村立幼稚園職員等ワーキング･チーム会議　意見出しのまとめ（2）

今後の方向性を判断するための材料として，実施の可不可を問わず，多方面から検討を行ったものであり，決定事項ではありません。

テーマ：幼稚園における昼食の提供について

今後幼稚園で
昼食を提供する際の考え方

保護者に期待されること

- 保護者の食育に繋がるような献立を提供する
  - 献立を確認することで家庭でも季節を感じる食材を取り入れてもらう
- お弁当の回数を減らすことにより栄養を考えた弁当作りの意識が高まる
- お弁当を作る回数が減ることでできる時間を子どもと向き合う時間に使ってもらう

配慮

- 保護者の手作り弁当を食べる機会を大切にしたい
- 保護者の経済的な負担とならないように考慮する

体制･設備

- 昼食の提供を受ける･受けないを保護者が選べると良いが，提供側としてはパターンは複雑化しないほうがよい
- 専任の事務員や看護師等を配置する
- 昼食の提供に必要な設備を村がどこまで負担できるのか
- 調理室や，保管場所等を考える必要がある
- 温度管理が必要となる

子どもの教育

- 感謝の気持ちが育まれる
- 食べられた達成感を得られるようになる（苦手の克服）
- 食事のマナーを身に付けられる
- 配膳や片付けのお手伝いができるようになる

昼食の内容

- 食べたい！美味しそう！と思ってもらえるものを提供する
- 色々な食材を食べる経験の場にする
- 栄養バランスを考えたものを提供する
- 美味しいものや温かいものを提供する

その他

- 給食センターを作り色々な人が同じ給食を食べられるようなカフェや食堂を併設する
  - 子育て支援活動にも利用できる
  - 村松幼稚園の良さをそこで発信できる